

本年度は「心機一転」をテーマにして、皆様とともに明るい未来を考える本を紹介いたします。

今号は「一」に関する4冊の紹介です。

※書籍右横の番号はセンターでの検索番号です。



わたしの人生は、わたしのモノ

2020年 朝日新聞出版
小島 貴子 (著)

[100-4]

あなたの人生は、あなたのモノと言い切れますか？
キャリアカウンセラーとして様々な人の人生に関わってきた著者が、自分の人生を自分のモノとして生きている人たちに会い、対談の中から11の要素を考えた。

本書は、「わたしの人生をわたしのモノとするための要素」11項目と「輝き続ける女性」・「自由に羽ばたく女たち」7人との対談からなり、各章ごとに独立しているのでいつでもどこからでも読める。

わたしもできるかな？そんなわたしの背中を押してくれる一冊。自分の人生は自分で作ろう！（ルナ）



彼女たちの部屋

2020年 早川書房
レティシア・コロパンニ (著)
齋藤 可津子 (訳)

[1200-2]

約100年前、露頭に迷うすべての女性と子どもを救うための施設創設に立ち向かった救世軍の女性闘士ブランシュ。彼女は「女性は銀行口座の名義人にならない時代」に巨額の資金を集め、だれにも殴られず、寒さにも凍えずに眠れる部屋のある「女性会館」を開設した。現代、パリの街中にあるその施設で、暴力や貧困で居場所をなくした居住者の人生に関わっていく女性弁護士ソレーヌ。二人の主人公を通して二つの時代の貧苦と差別が見えてくる本書。描かれているのは、再生から希望へ、一歩踏みだす女性たちの姿。（みっと）



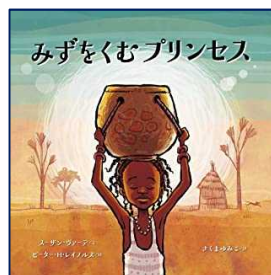
イーブン

2020年 小学館
村上 しいこ (著)

[1200-2]

言いたいことがうまく言えず登校できなくなった美桜里。手作り市で出会ったトムが自分に似ていると心配して、キッチンカーの仕事の手伝いに誘ってくれた。共感できないけど、共感に必要な距離まで近づけた気がしたら、すっと言葉が出た。話せたことでからまっていたわだかまりがほぐれて、心が軽くなる。わだかまりはちゃんと言い返せなかった自分へのいらだちだったんだ。

自分と相手の気持ちをすりあわせるイーブンな関係。新しい歩みを始められそうな気がする。（ぼっと）



みずをくむプリンセス

2020年 さ・え・ら書房
スーザン・ヴァーデ (著)
ピーター・H・レイノルズ (絵)
さくま ゆみこ (訳)

[2000]

朝、まだ暗い時間に起きてかあさんと水汲みに出かけるアフリカの少女ジージー。水を入れる大きなつぼを頭に載せて遠くまで歩き、やっと川にたどりついても水は飲めない。飲めるのは水を家に運んで飲み水を湧かし、洗濯を済ませてごはんの用意をしてから…。

水汲みをする少女の一日を描いたこの絵本は、現在井戸を掘る活動に取り組んでいるアフリカ人モデル、ジョージ・バディエルの体験を元に作られたものです。

巻末には湧き出る水に喜ぶ子どもたちの写真があります。喜びの輪がもっと広がりますように。（みっと）